

令和6年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）
島根県（公立）の結果概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(2) 特別支援学校及び小中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査実施日

令和6年4月18日（木）

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学はそれぞれ次の①と②を一体的に出題
 ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

(2) 質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 県内公立学校で調査を実施した学校数・児童生徒数

市町村立小学校 191 校、義務教育学校前期課程 2 校及び県立特別支援学校小学部 2 校

小学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施児童数
公立学校合計	195	195（100%）	5,310 人

市町村立中学校 88 校、義務教育学校後期課程 2 校及び県立特別支援学校中学部 4 校

中学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施生徒数
公立学校合計	94	94（100%）	4,936 人

Ⅱ 公表について

1 公表の内容

- (1) 島根県及び全国の教科に関する調査の結果
- (2) 島根県及び全国の質問調査の結果

児童生徒質問、及び学校質問の回答状況

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であること

3 その他

島根県教育委員会のホームページ及びしまねの教育情報 Web「EIOS」に公表資料を掲載

Ⅲ 教科に関する調査の結果

1 結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

- ① 小学校国語、中学校国語においては、全国平均並みであった。
- ② 小学校算数、中学校数学においては、全国平均を下回った。
- ③ 小学校国語では、「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」は全国平均を下回った。
- ④ 小学校算数では、「図形」「データの活用」は全国並みであったが、「数と計算」「変化と関係」は全国平均を下回った。
- ⑤ 中学校国語では「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均を上回った。「書くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を下回った。
- ⑥ 中学校数学では、すべての領域において、全国平均を下回った。

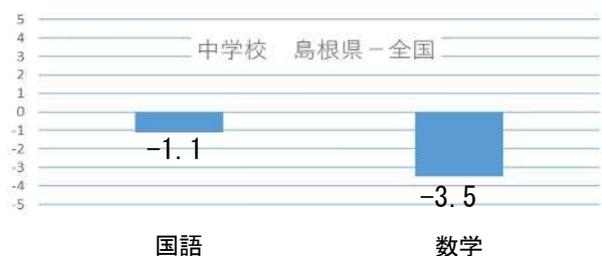
2 各教科の平均正答率

【小学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全 国	差
国語	67	67.7	-0.7
算数	61	63.4	-2.4

【中学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全 国	差
国語	57	58.1	-1.1
数学	49	52.5	-3.5



【参考】各教科の正答率の全国との差（経年変化）



※ 令和2年度の調査は中止

3 各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集計結果

○：県が全国を2ポイント以上、上回るもの －：県と全国の差が2ポイント未満のもの △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの

【小学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

【これまでの課題】

A 「書くこと」では、複数の情報を読み取り、字数や段落構成など指定された条件にしたがって作文することに課題があり、無解答率が2割程度ある。

B 第5学年では、漢字の構成や文法の理解に課題がある。

【本調査の状況】

・県平均正答率は67%であり、全国並みである。

・「話すこと・聞くこと」は全国を下回っている。

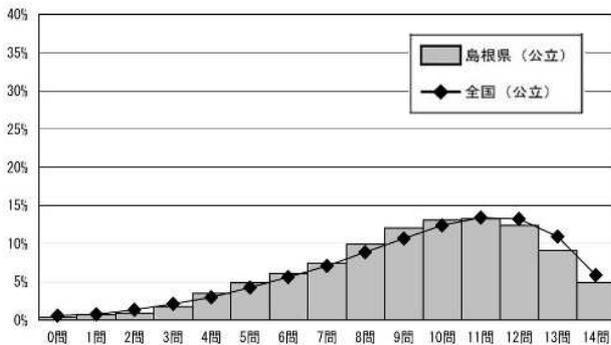
①「情報の扱いに関する事項」については、指導者側の意識の高まりが見られ、結果が改善している。…A

②例年課題となっていた「書くこと」においても、全国との差が縮まり改善が見られた。…A

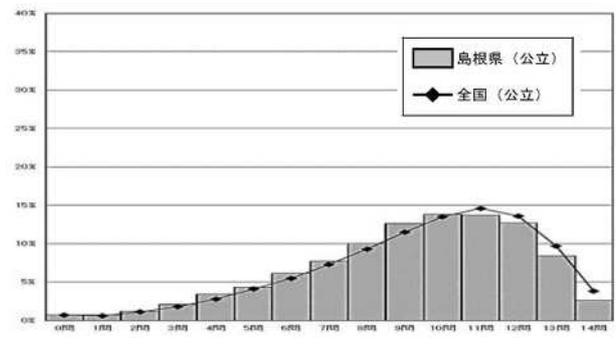
①目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られる。…A

②登場人物の相互関係や心情などについて、暗示的な描写を基に捉えることに課題が見られる。

1 正答数分布グラフ (R6)



【参考】[R5]



2 分類・区分別集計結果 (R6)

学習指導要領の内容	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
話すこと・聞くこと	3	57.3	59.8	-2.5 △
書くこと	2	67.5	68.4	-0.9 -
読むこと	3	69.0	70.7	-1.7 -
知識及び技能 (言葉の特徴や使いに関する事項)	4	64.0	64.4	-0.4 -
知識及び技能 (情報の扱いに関する事項)	1	86.1	86.9	-0.8 -
知識及び技能 (我が国の言語文化に関する事項)	1	75.3	74.6	0.7 -

【参考】[R5]

学習指導要領の内容	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
話すこと・聞くこと	3	70.6	72.6	-2.0 △
書くこと	1	22.6	26.7	-4.1 △
読むこと	3	68.0	71.2	-3.2 △
知識及び技能 (言葉の特徴や使いに関する事項)	5	70.9	71.2	-0.3 -
知識及び技能 (情報の扱いに関する事項)	2	61.1	63.4	-2.3 △

3 成果が見られる問題2問

【問題番号】 ②一(2)「情報の扱いに関する事項」☞①
 [島根県値 86.1%] [全国値 86.9%]
 【問題内容】【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する

【問題番号】 ②二「書くこと」☞②
 [島根県値 53.6%] [全国値 56.6%]
 【問題内容】【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く

課題のある問題2問

【問題番号】 ①三「話すこと・聞くこと」☞①
 [島根県値 60.8%] [全国値 63.8%]
 【問題内容】オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する

【問題番号】 ③二(1)「読むこと」☞②
 [島根県値 64.1%] [全国値 66.9%]
 【問題内容】「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する

【小学校 算数】

・：概要 ○：成果 ●：課題

【これまでの課題】
 A 日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる二つの数量の関係について考察することに課題がある。
 B 式や言葉を用いて記述することに課題がある。

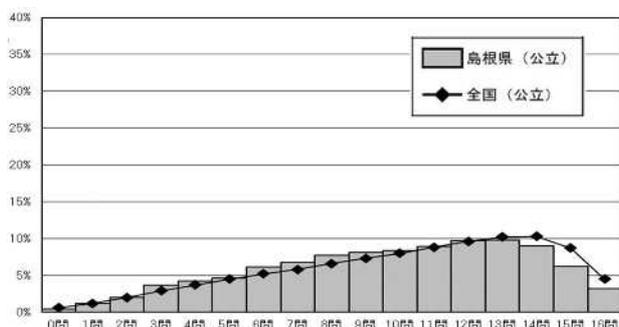
【本調査の状況】

- ・高正答率が全国と比較して少ない。
- ・県平均正答率は61%であり、全国を2.4ポイント下回っている。
- ・領域別では、「数と計算」「変化と関係」の2領域について全国を下回っている。

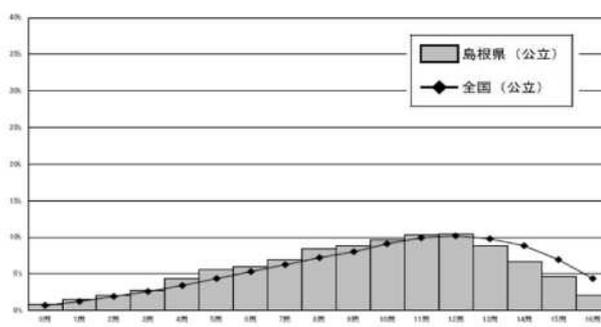
①□などの記号を用いて、問題場面どおりに数量の関係を式に表すことができる。
 ②直方体の辺の長さや位置関係に着目し、見取り図をかくことができる。

①図形の特徴や構成要素を他の図形の計量に生かすことに課題がある。
 ②道のりと時間の二つの量の関係で表される速さなど、二つの量の割合としてとらえられる数量について理解し、説明することに課題がある。…A

1 正答数分布グラフ (R6)



【参考】[R5]



2 分類・区分別集計結果 (R6)

学習指導要領の領域	対象設問数※	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と計算	6	63.5	66.0	-2.5	△	
図形	4	64.5	66.3	-1.8	—	
変化と関係	3	46.0	51.7	-5.7	△	
データの活用	4	60.2	61.8	-1.6	—	

【参考】[R5]

学習指導要領の領域	対象設問数※	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と計算	6	63.8	67.3	-3.5	△	
図形	4	43.3	48.2	-4.9	△	
変化と関係	4	66.6	70.9	-4.3	△	
データの活用	3	62.8	65.5	-2.7	△	

3 成果が見られる問題2問

〔問題番号〕 ①(2) 「数と計算」 ①
 [島根県値 86.8%] [全国値 88.5%]
 [問題内容] はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。

〔問題番号〕 ③(1) 「図形」 ②
 [島根県値 85.7%] [全国値 85.5%]
 [問題内容] 作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選ぶ。

課題のある問題2問

〔問題番号〕 ③(3) 「図形」 ①
 [島根県値 31.3%] [全国値 36.5%]
 [問題内容] 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。

〔問題番号〕 ④(4) 「変化と関係」 ②
 [島根県値 47.6%] [全国値 54.1%]
 [問題内容] 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。

※グラフの設問数と分類・区分別集計結果の対象設問が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれるため。

【中学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

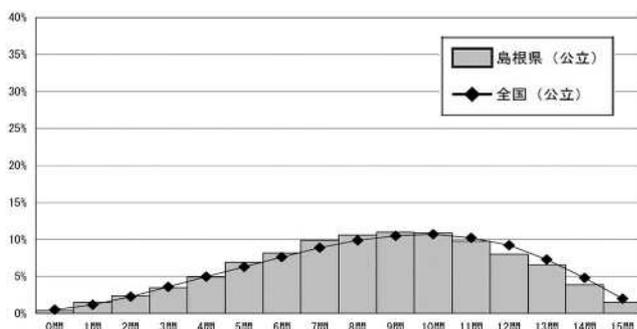
【これまでの課題】

- A 作文問題の無解答率が高く、資料から読み取った内容を明確にしてまとまった分量の文章を書くことや、問題全体の時間配分等に課題がある。
- B 第2学年で、文章の表現の効果について根拠を明確にして捉えることに課題がある。
- C 熟語を読むことや字形が似ている漢字を書き分けることに課題がある。

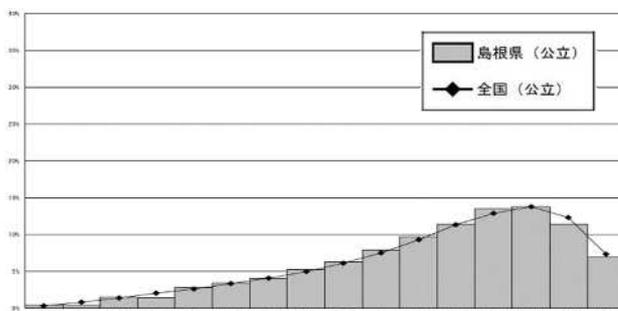
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は57%であり、全国並みである。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」は全国を上回っている。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」は全国を下回っている。
- ①行書の特徴についてはよく理解できている。
- ②既習の漢字の読み書きについては概ねできている。
- 資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えることに課題がある。…A
- 表現の効果を踏まえた描写により自分の考えが効果的に伝わる文章になるよう工夫することに課題がある。…B

1 正答数分布グラフ (R6)



【参考】(R5)



2 分類・区別集計結果 (R6)

学習指導要領の内容	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
話すこと・聞くこと	3	56.2	58.8	-2.6 △
書くこと	2	63.4	65.3	-1.9 -
読むこと	4	46.2	47.9	-1.7 -
知識及び技能 (言葉の特徴や使い方に関する事項)	3	57.2	59.2	-2.0 △
知識及び技能 (情報の扱い方に関する事項)	2	58.5	59.6	-1.1 -
知識及び技能 (我が国の言語文化に関する事項)	1	79.4	75.6	3.8 ○

【参考】(R5)

学習指導要領の内容	対象設問数※	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
話すこと・聞くこと	3	81.5	82.2	-0.7 -
書くこと	2	61.2	63.2	-2.0 △
読むこと	4	62.9	63.7	-0.8 -
知識及び技能 (言葉の特徴や使い方に関する事項)	2	70.1	67.5	2.6 ○
知識及び技能 (情報の扱い方に関する事項)	2	62.7	63.4	-0.7 -
知識及び技能 (我が国の言語文化に関する事項)	3	75.8	74.7	1.1 -

3 成果が見られる問題2問

[問題番号]	4三「我が国の言語文化に関する事項」①
[問題内容]	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものと適切なものを選択する。
[問題番号]	3三「言葉の特徴や使い方に関する事項」②
[問題内容]	漢字を書く。(みちたいた)

課題のある問題2問

[問題番号]	1二「話すこと・聞くこと」①
[問題内容]	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む。
[問題番号]	3四「書くこと」②
[問題内容]	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。

※グラフの設問数と分類・区別集計結果の対象設問が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれるため。

【中学校 数学】

・：概要 ○：成果 ●：課題

【これまでの課題】

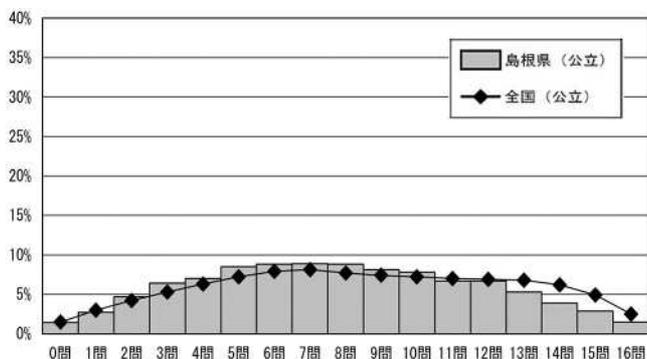
- A 「数と式」の数に関する基本的な意味及び概念の理解については、正の数・負の数の大小、絶対値、基準との差を正の数・負の数を用いて表すことの理解に課題が見られた。
- B 「関数」について、基礎的な概念や性質を理解することに課題があり、具体的な事象における考察に課題がある。

【本調査の状況】

- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
- ・県平均正答率は49.0%であり、全国を3.5ポイント下回っている。
- ・領域別では全領域で下回っており、特に「数と式」においては6.0ポイント下回っている。

- ①「数と式」の基本的な加法の計算ができていた。…A
- ②「関数」の基本的な意味理解に改善が見られた。…B
- ①「数と式」の文字式を用いた説明に課題が見られた。…A
- ②「図形」の筋道を立てて考え、証明することに課題が見られた。

1 正答数分布グラフ (R6)



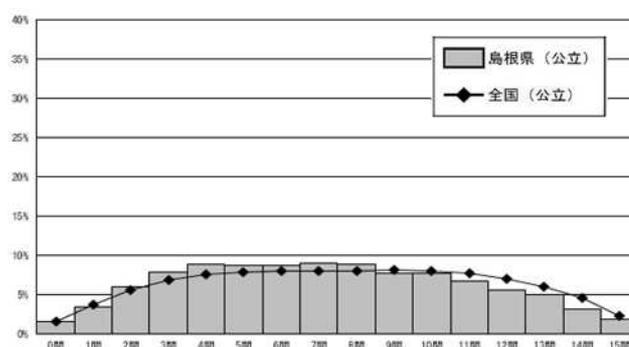
2 分類・区別集計結果 (R6)

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
数と式	5	45.1	51.1	-6.0 △
図形	3	37.7	40.3	-2.6 △
関数	4	58.3	60.7	-2.4 △
データの活用	4	52.6	55.5	-2.9 △

3 成果が見られる問題2問

- [問題番号] ⑥(1)「数と式」 ①
 [島根県値 90.5%] [全国値 90.2%]
 [問題内容] 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める。
-
- [問題番号] ⑧(1)「関数」 ②
 [島根県値 82.9%] [全国値 83.4%]
 [問題内容] ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ。

【参考】[R5]



【参考】[R5]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
数と式	5	58.9	63.0	-4.1 △
図形	3	29.4	33.2	-3.8 △
関数	4	48.4	51.2	-2.8 △
データの活用	3	48.6	48.5	0.1 -

課題のある問題2問

- [問題番号] ⑥(2)「数と式」 ①
 [島根県値 23.9%] [全国値 35.9%]
 [問題内容] 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する。
-
- [問題番号] ⑨(1)「図形」 ②
 [島根県値 21.8%] [全国値 25.8%]
 [問題内容] 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する。

IV 児童生徒質問・学校質問調査の結果

1 令和5年度の課題と改善状況を把握する質問項目

〔児〇〕：令和6年度 児童質問調査項目〇番

〔学小〇〕：令和6年度 学校質問（小学校）調査項目〇番

〔生〇〕：令和6年度 生徒質問調査項目〇番

〔学中〇〕：令和6年度 学校質問（中学校）調査項目〇番

※紙面の都合上、一部調査項目は簡略化して記載しています。

(1) 授業の質の充実

【令和5年度の課題】

- 「話し合う目的や話合いの視点を児童生徒が理解できるように提示すること」を今後も重視し、児童生徒が自分の意見を明確にもち、相手に伝えようとする意識を高めていけるような授業改善を続けることが必要である。
- 「今年度の授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたと思う。」について、肯定的な回答をしなかった児童生徒についても意識しながら、児童生徒の実態に合わせた「個別最適な学び」の充実のための授業改善に取り組む必要がある。
- 授業において、「話し合う目的や話合いの視点を児童生徒が理解できるように提示すること」「個の考えを表現する時間と場を設けること」などを工夫する必要がある。

- ①学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている [児 33] [生 33]
- ②授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた [児 30] [生 30]
- ③5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか [児 27] [生 27]

(2) 家庭学習の充実

【令和5年度の課題】

- 家庭学習と授業との有機的な結び付きを図るとともに、生徒が自分にあった学習方法を見出せるよう具体例を挙げながら指導する必要がある。また、1人1台端末等を活用し、個に応じた家庭学習を充実させていく必要がある。

- ④学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます） [児 21] [生 21]
- ⑤家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える [学小 71] [学中 75]

(3) 地域に関わる学習の充実

【令和5年度の課題】

- 探究の過程を意識した学びのよさを、児童生徒自身が理解し実感できるような授業改善が引き続き求められる。
- 児童生徒と地域とのつながりを生かしながら、総合的な学習の時間やその他の教科で児童生徒が身近なものとして主体的に追究できる地域素材を活用した学習を展開する必要がある。

- ⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う [児 25] [生 25]

- ⑦総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる [児 38] [生 38]
- ⑧総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている [学小 36] [学中 36]

(3) その他

【令和5年度の課題】

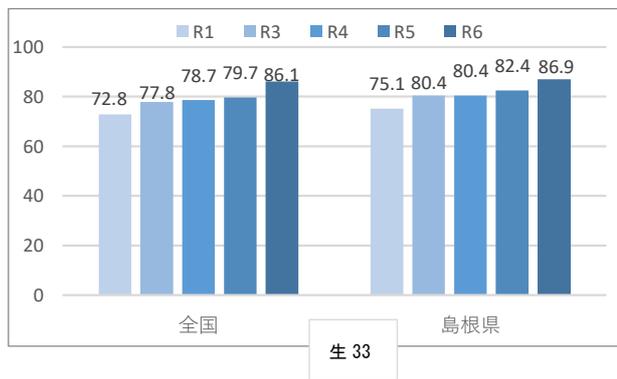
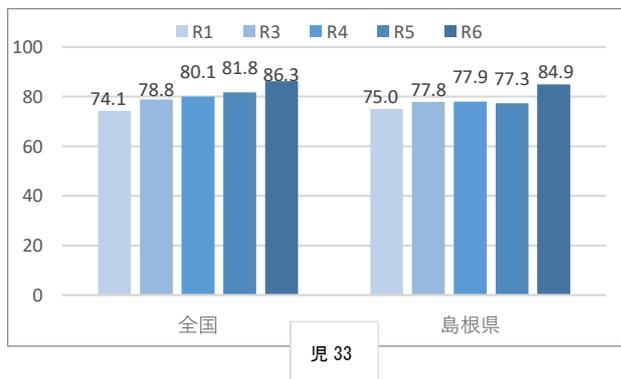
- 1人1台端末の家庭での活用を見据え、児童生徒の興味・関心や学校での学習につながるコンテンツを紹介する等、家庭で効果的なICT機器の使用について情報発信する必要がある。また、引き続き家庭での時間の使い方やSNS、インターネット等の利用の仕方について家庭と連携して共通理解を図る必要がある。
- ⑨普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか [児 5] [生 5]
- ⑩普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く） [児 6] [生 6]
- ⑪先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う [児 36] [生 36]

2 課題の改善状況 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

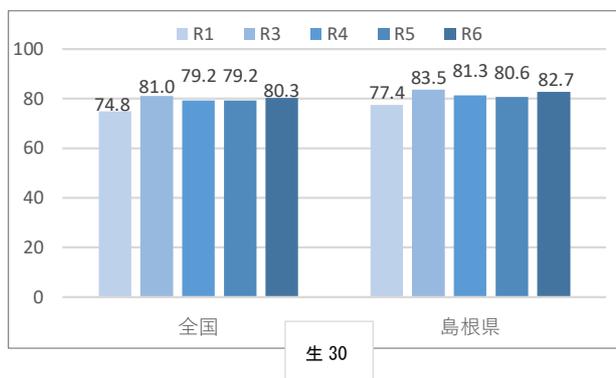
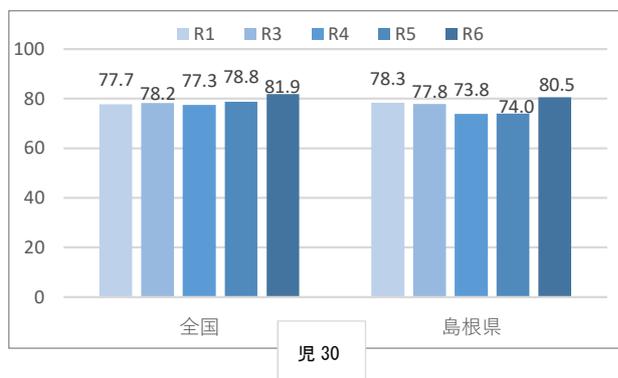
(1) 授業の質の充実

- 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」については、小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、全国並みである。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」については小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、小学校では昨年度に比べ大幅に上がっている。引き続き、自分の考えを発表したり、友達の発表を聞いたりするなどの協働的な学びの場を確保するとともに、個別最適な学びの充実を図る必要がある。
- 「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに過去の調査と比べ増加しているが、全国を大きく下回っている。「児童生徒同士がやり取りする場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「デジタル教科書の活用」等、端末の効果的な活用を市町村教育委員会と共に進める必要がある。

①学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている〔児33〕〔生33〕

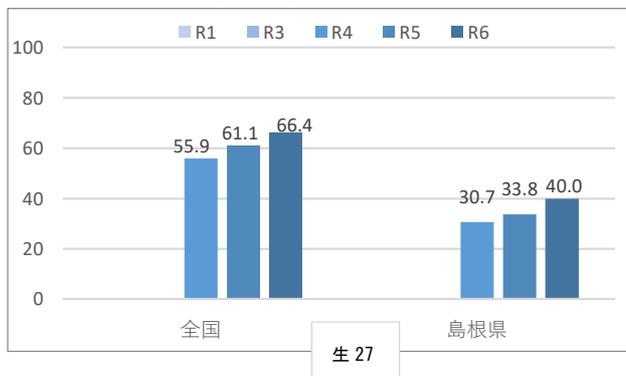
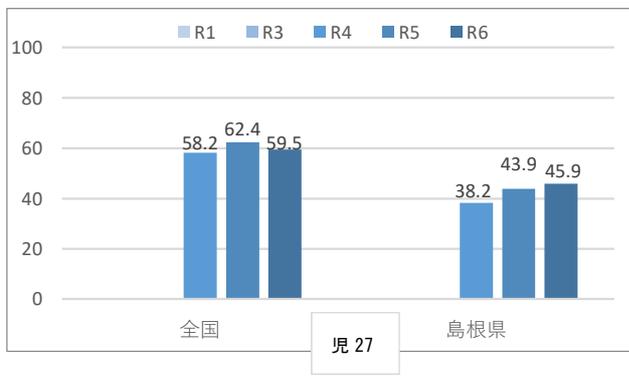


②授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた〔児30〕〔生30〕



③授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか〔児27〕〔生27〕

(週3回以上、ほぼ毎日と回答した割合の合計 ※R4より、「週3回以上」の選択肢が追加)



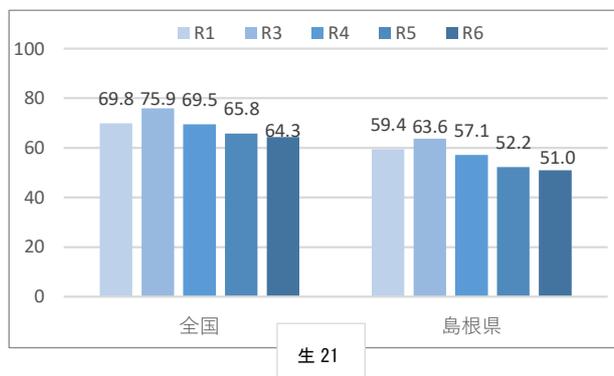
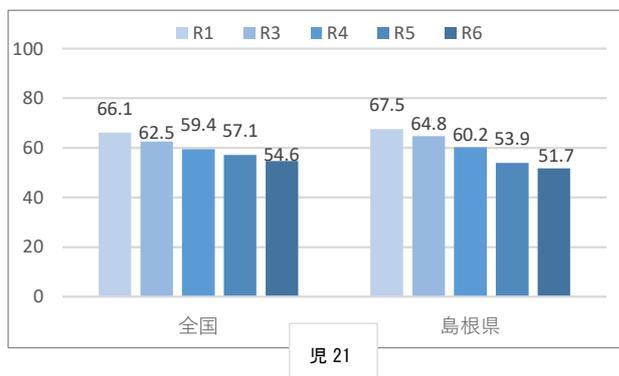
(2) 家庭学習の充実

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国的に減少傾向にある。全国と同様に島根県も減少しており、家庭学習時間の差は縮まっていない。「家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例をあげながら教えた」と回答している学校は9割を越えており、学校は家庭学習の充実に向けて取り組んでいるが、児童生徒の学習時間の増加にはつながっていない。家庭学習の充実に向けた取組の好事例を各学校に広げ、家庭学習と授業との有機的な結び付きを図るとともに、1人1台端末の家庭への持ち帰りによる活用など、児童生徒が自分にあった学習方法を見出せるよう支援する必要がある。

④学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

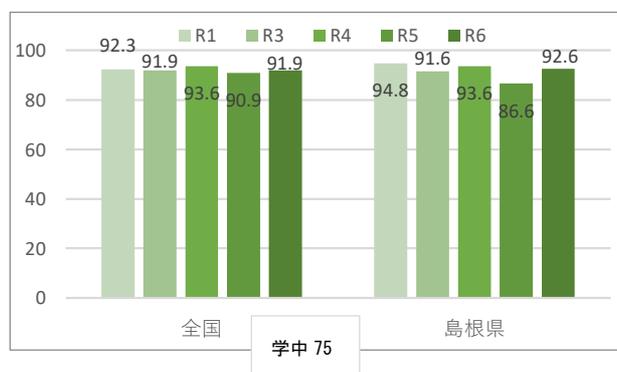
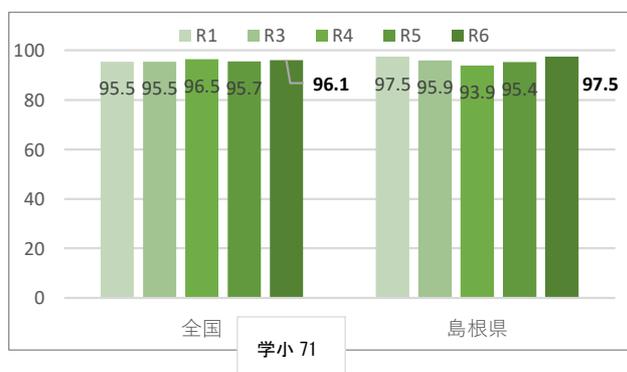
〔児 21〕〔生 21〕

（1日当たり1時間以上勉強すると回答した割合の合計）



⑤家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える

〔学小 71〕〔学中 75〕

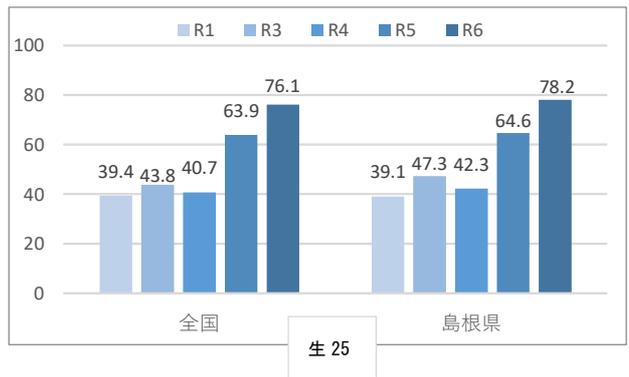
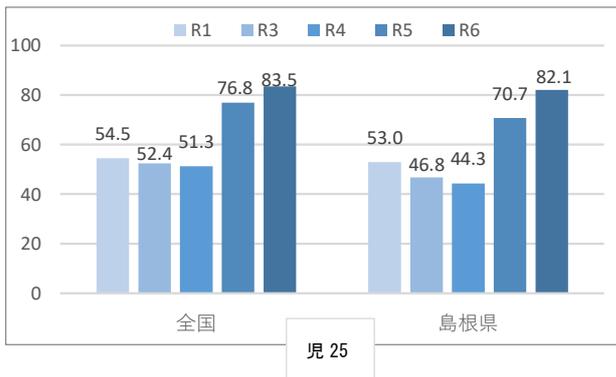


(3) 地域に関わる学習の充実

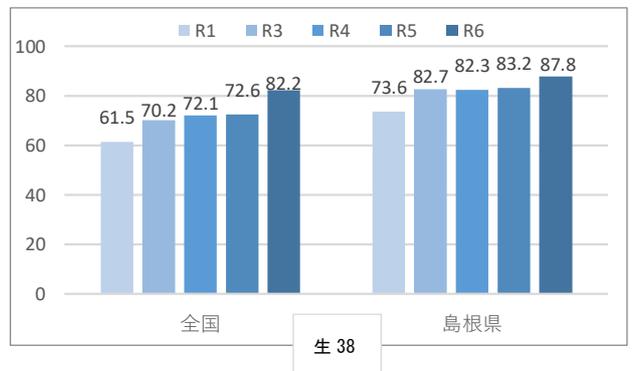
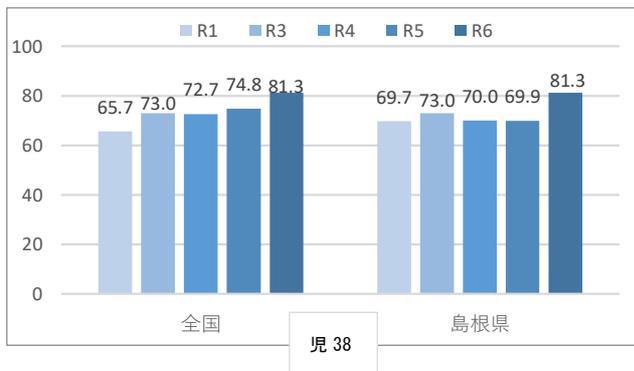
○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒は、昨年に比べ大幅に増えた。中学校では、全国を上回り、小学校でも全国並みであった。「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」と回答した学校が小中ともに9割を越え、全国を上回っていることから、各校での地域と連携した学習の成果であると考えられる。

○『『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか』について、小学校は全国並み、中学校は全国を上回った。肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに8割を越え、昨年度に比べ増加している。また、9割程度の学校が「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」と回答しており、各校での授業改善が、児童生徒の探究の過程をふまえた学びにつながっていると考えられる。

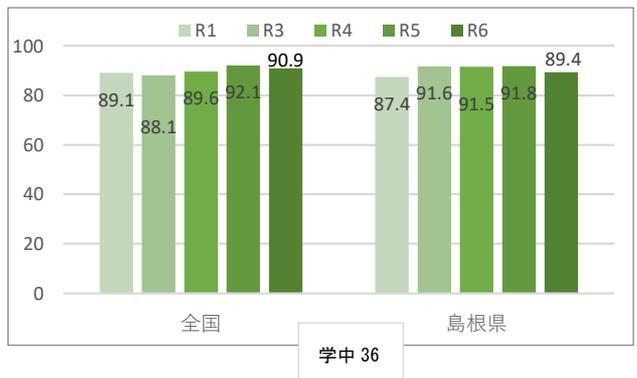
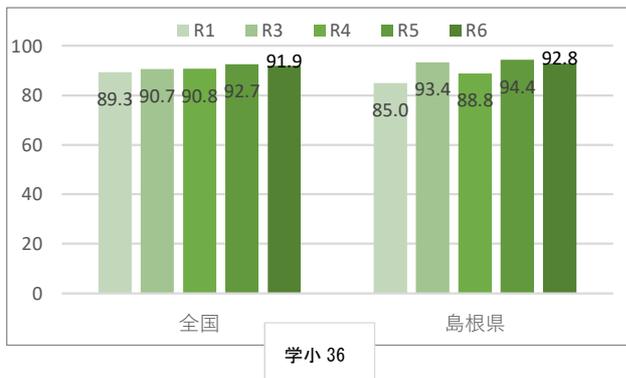
⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う〔児 25〕〔生 25〕



⑦総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる〔児 38〕〔生 38〕



⑧総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている〔学小 36〕〔学中 36〕



(4) その他

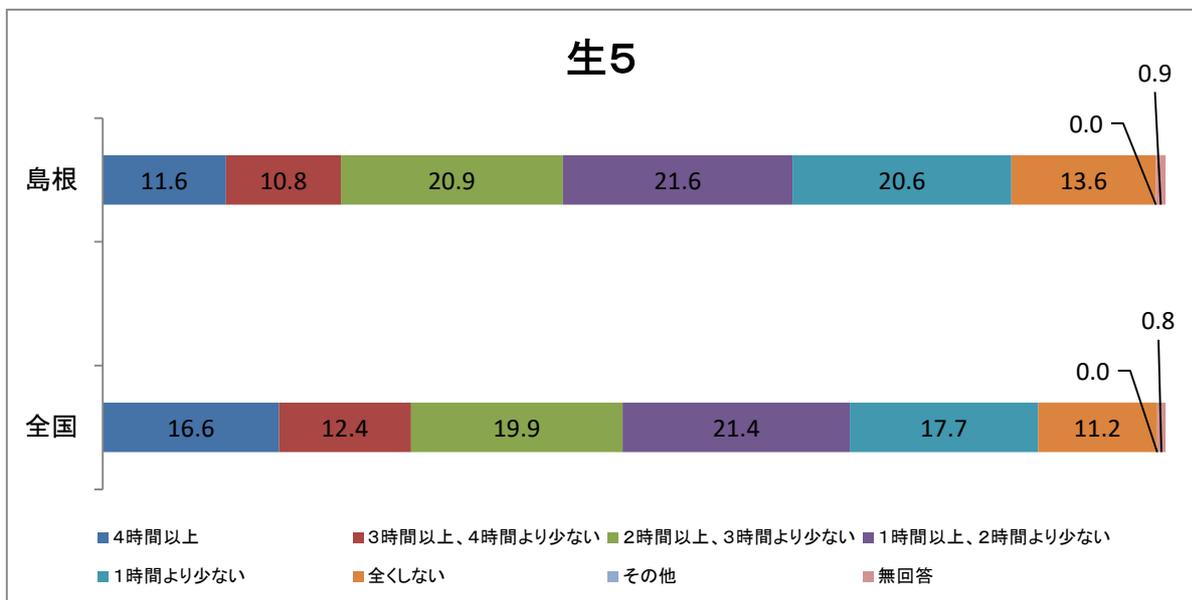
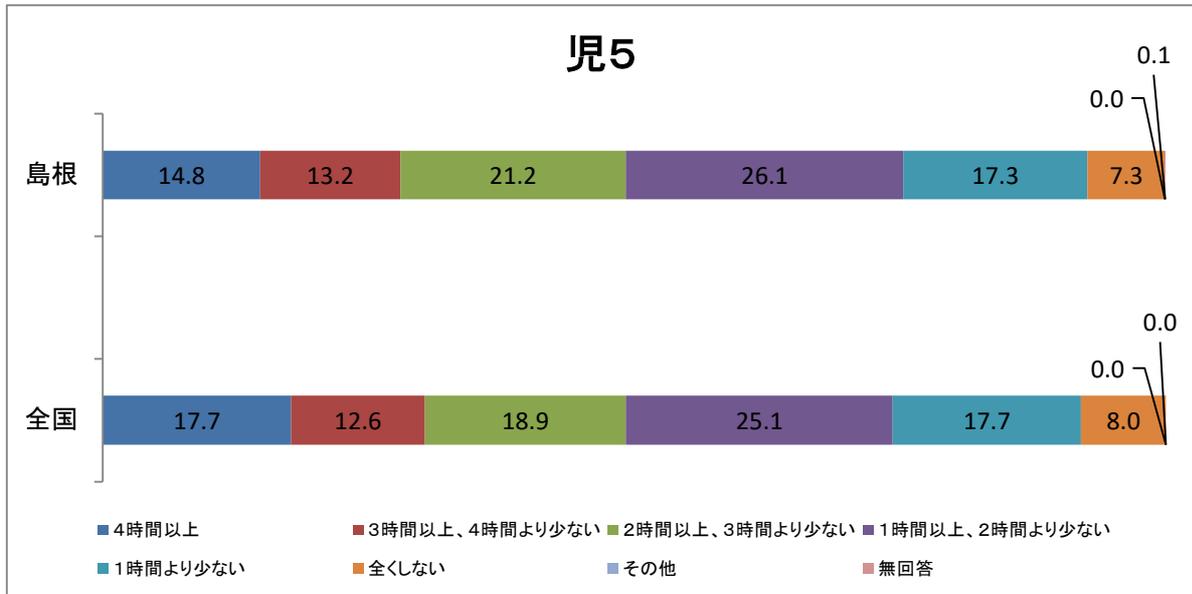
○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」と「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」について、それぞれ3時間以上と回答した児童生徒の割合は、全国と比べ少ないが、島根県においても一定数存在している。

長時間のメディア接触が学力に及ぼす影響について危惧されていることや、心と体の健康を図るために、メディアとの適切な接し方について、保護者と連携して対応していくことが必要である。

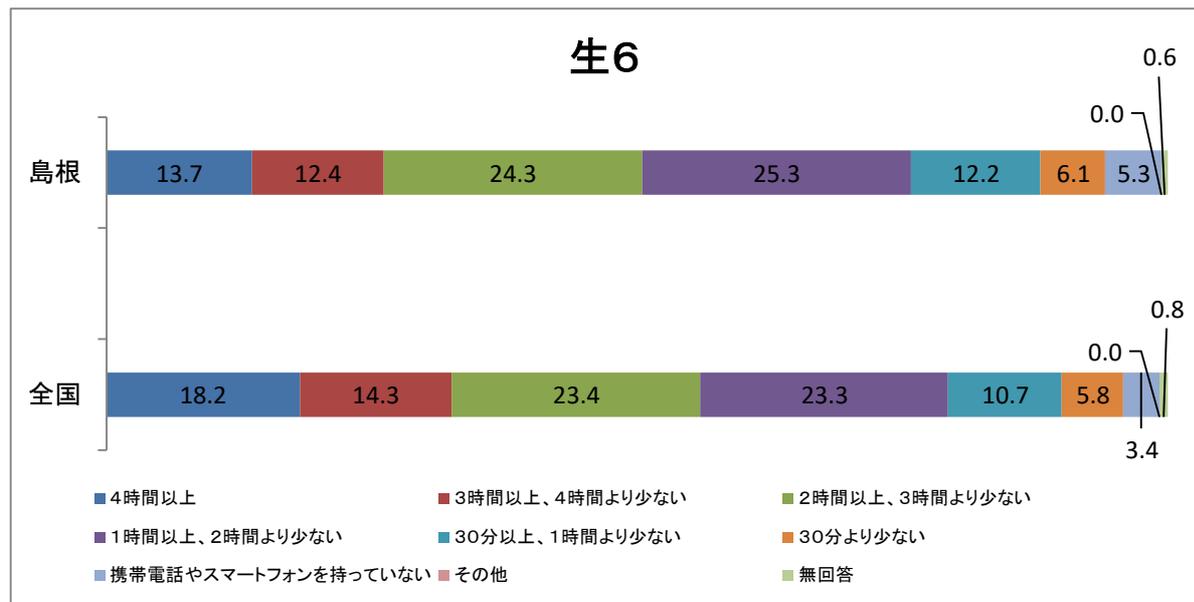
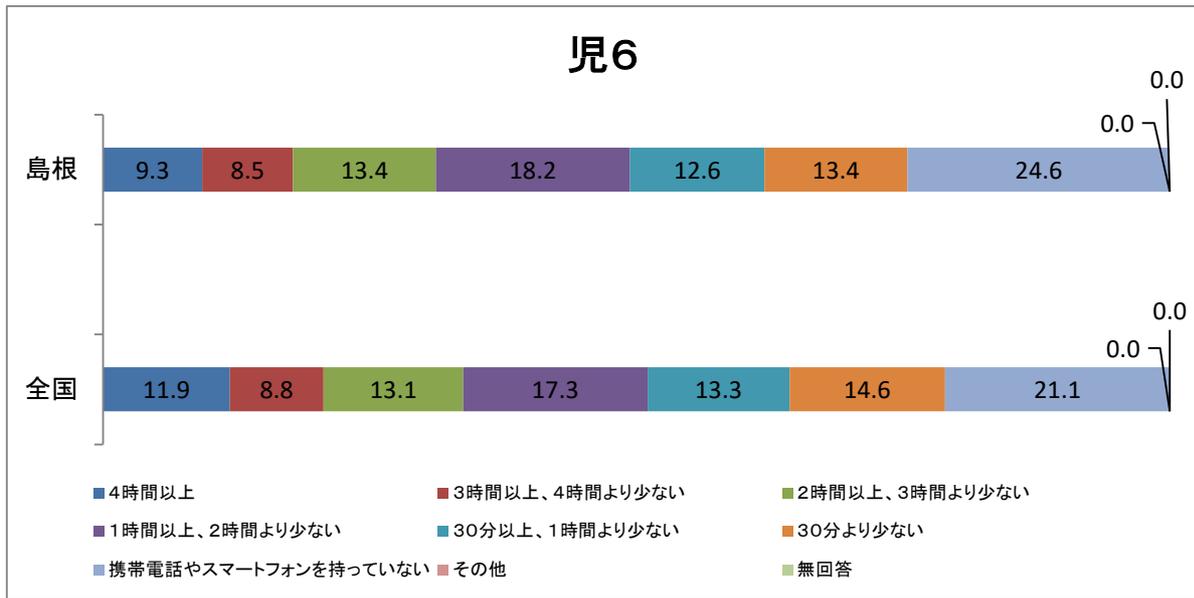
○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに昨年度同様8割を越えている。

今後も、児童生徒一人一人の課題等に対応したきめ細かな指導の継続が求められる。

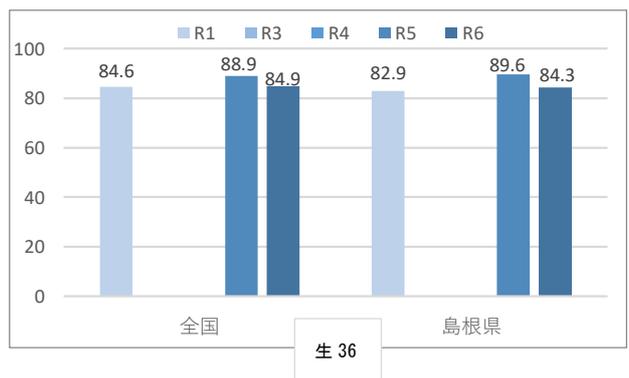
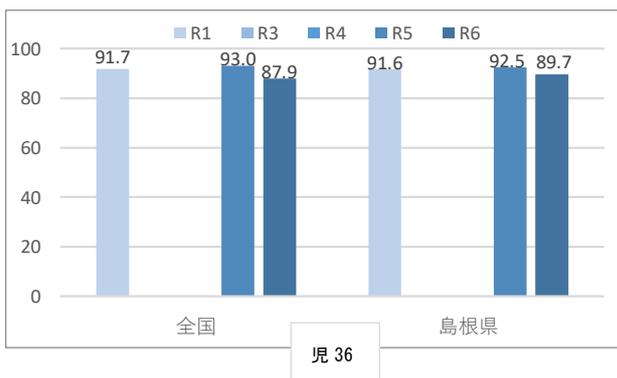
⑨普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか〔児5〕〔生5〕



⑩普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか〔児6〕〔生6〕



⑪先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う〔児36〕〔生36〕



V 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

○授業の質の充実

全国学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

- ・全教員が課題のあった問題等を解き、改善策や手立てを考え、全校で取組を行う。そして、具体的な子どもの姿で取組の改善状況を把握する。
- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。
- ・話し合いの場面で、目的を明確にして児童生徒に示すとともに、議題や手順、ツールなどを具体的に指導する。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、「考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士がやり取りする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」などで1人1台端末の日常的かつ効果的な活用を一層進める。
- ・児童生徒が身につける資質・能力を明確にした授業を行うとともに、校区の小中学校においては育てたい子ども像などを共有する取組を一層進める。

○家庭学習の充実

家庭学習と授業との有機的な結びつきを図るとともに、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだすことができるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・「教育情報紙第49号（令和5年3月）」等を活用し、授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解をする。
- ・学習内容を定着させる宿題に取り組むだけでなく、学習計画を立て、計画に基づいて学習を実行する力を育むとともに、1人1台端末を活用した個に応じた家庭学習を充実させる。

○地域に関わる学習の充実

児童生徒一人一人が自ら課題を見付け、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える姿勢を育成する。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域素材の効果的な活用と、各教科等で身に付けた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を行う。

2 県教育委員会の取組

- ・学力育成会議等で市町村と学力育成の取組について協議するとともに、各市町村の取組や成果を各市町村・学校と共有する。
- ・学校全体で組織的な授業改善が進められるよう、調査結果の分析の仕方や今後の取組の設定等について、学校訪問により指導主事が支援を行う。
- ・課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付するとともにそれらの活用を促進し、活用状況を確認する。